

# 診療放射線技師が担うDX推進： AI技術と現場の変革

富士フイルム株式会社

2025年にリリースした富士フイルムの1.5Tワイドボア装置「ECHELON Synergy」、「ECHELON Synergy ZeroHelium」の新しいVersion 11ではAI技術を活用してMRI検査全般のワークフロー改善に注力している<sup>1)</sup>。本稿ではMRI検査ワークフローに沿って紹介する。

The new software “Version 11” of FUJIFILM 1.5T wide bore MRI system ECHELON Synergy and EHCELON Synergy ZeroHelium was released in 2025. The AI technologies were integrated to improve workflow of the MRI examination<sup>1)</sup>. The FlexFit Neuro Coil and automatic processes of slice setting and post processing reduces MRI examination time. In addition, the functions to reduce rescan were introduced to improve workflow.

## はじめに

富士フイルムでは、医療現場の多種多様な課題を解決するために、メディカルAI技術ブランド「REiLI（レイリ）」を基にAI技術を用いて開発した機能をさまざまな医療機器に搭載してきた。MRI機器に関しては、「ゼロヘリウム×AI技術の活用」をコンセプトで、貴重なヘリウム資源の枯渇問題とMRI検査の大きな課題のひとつである検査時間短縮の課題解決に取り組んでいる。本稿では、2025年にリリースされたワイドボア1.5T MRI装置「ECHELON Synergy」、「ECHELON Synergy Zero Helium<sup>2)</sup>」（図1）と新しいバージョンのソフトウェア「Version 11」を中心に、AI技術を活用したワークフローの自動化の機能<sup>1)</sup>と効果について、実際の検査ワークフローに沿ってそれぞれの機能について紹介する。

## 被検者ポジショニングの時間短縮 をサポート -FlexFit Neuro Coil, AutoSet, AutoStart-

ECHELON Synergyでは開放的なデザイ

ンの頭頸部用コイルが開発された（図2）。被検者が横になった後、頭頂部にあるグリップを握り、頭側に押し込むだけのワンアクションでセッティングが完了する。これにより被検者ポジショニングの時間



図1 1.5T MRI装置 ECHELON Synergy ZeroHelium